

- 女性のセカンドキャリアを支援 日本キャリアアップ支援協会
- 親子で、家族で、友達といっしょに絵本を楽しみたい
-てんやく絵本の誕生から30年-
- 書籍紹介「こんな働き方もあったのか! 最小最強のチーム論
~主婦3人が動かした3万人のサポーター~」

- かがやくひと
- 編集後記
- インフォメーション

かがやけ地球



藤 沢 市

女性のセカンドキャリアを応援

日本キャリアアップ支援協会

一般社団法人日本キャリアアップ支援協会(以下、通称「きゃりさぽ」)は、結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤などライフイベントに左右されがちな女性が家庭も自分も犠牲にすることなく、自分らしく仕事を続けるための支援をしている。

「自宅や地域で働きたい」「自分に合った仕事のスタイルを見つけたい」「子育てしながら働きたい」。そうした多様な働き方の選択肢のひとつとして、「在宅ワーク」を提案する。

一般的な在宅ワークは、クラウドソーシング・サービス(※1)などに登録し、そこで紹介される仕事に応募する方法が最近の主流だが、ブランクがあったり、スキルに不安がある人にとっては少々ハードルが高い。きゃりさぽでは、そのような人が一歩を踏み出せるようなスキルアップ講座を開いたり、情報提供をすることでサポートをする。また、女性の活用や新しい働き方に積極的な地元事業者からの仕事を受注して、地域企業とやりがいのある仕事がしたい女性との架け橋としての役割も担う。

理事長の橋本雅代さんは藤沢に住んで11年。現在小学5年生を子育て中のワーキングママだ。同じように働くお母さんの中には、震災の時に帰宅難民になり、都内から帰って来られなくなった人もいた。自らの経験や実感から「働き方を見直し、個々のライフスタイルに合った本人も家族もハッピーになるような働き方を応援したい」と、きゃりさぽを立ち上げた。

具体的には、利用したい人がホームページから会員に登録(無料)すると、随時メールマガジンで講座やイベントなどの情報が送られてくる。今まで開講した「初めての在宅ワーク講座」や「ブログ講座」などは毎回大き



講座の様子

な反響があり、改めて在宅ワークへの関心の高さを感じたそうだ。

また、在宅ワーカーを始めとした女性個人事業主の方たちの交流と情報交換の場として「NEKTON^{ネクトン}なでしこんぶの会」を主催し、月1度のペースで会合を開いている。交流会の会場となっているのは藤沢駅南口の coworking space(※2)「NEKTON FUJISAWA^{ネクトン フジサワ}」。この会では多種多様な経験や特技を持つ女性たちが集い、つながりの中で仕事の幅を広げている。

「女性が経験するさまざまな出来事や主婦力が仕事に活かせる。ワーク・ライフ・バランスの実現はさらに仕事と生活にもシナジー(相互作用・相乗効果)を生みます」と橋本さん。

今では女性に限らず、学生の起業や障がい者の支援なども拡がりつつあるという。従来の就職支援とは違う、新しい形に進化した再就業支援に大いに期待したい。

(有田 記)

※1 オンライン上で受注者を公募して、仕事を発注するサービス。

※2 様々な業種、年齢の人々が集まり、仕事をしたり、ノウハウやアイデアを共有し、協働する場所。



一般社団法人 日本キャリアアップ支援協会

設立 2015年6月

所在地 藤沢市鵜沼橋1-17-11 順天ビル4F

電話番号 0466-77-8306

営業時間 平日10時~17時

事業内容 女性のキャリア支援

ホームページ <http://kyarisp.com>

◀一般社団法人 日本キャリアアップ支援協会 理事長 橋本 雅代 さん

親子で、家族で、友達といっしょに
絵本を楽しみたい

-てんやく絵本の誕生から30年-



2016年1月30日、藤沢市地域人権啓発講演会を聞きに行きました。

てんやく絵本ふれあい文庫の代表、岩田美津子さんの講演会でした。

岩田さんは、生まれた時から全盲で、2人のお子さんのお母さんです。目の見えるお母さんと同じように自分も子どもに絵本を読み聞かせたいと市販の絵本を点訳し、手作りのてんやく絵本を考案しました。その後、全国にてんやく絵本の貸し出しも始めました。

子どもの頃の岩田さんは、絵本を読んでいません。読んでもらってもいませんでした。子育て中のある日、お子さんが、「読んで」と絵本を触らせました。つるつるの紙に過ぎませんでした。

〈子どもにとって、普通の母でありたかった。お母さんの目が見えないからといって、読んでもらえないとはしたくなかったのです。自分も読んであげたいと思いました。「目は見えへんけど、いいお母さんやねん」と思われたかった。読める本にしたかった。〉

その頃、布の絵本や触る絵本も出始めてはいましたが、岩田さんは特別な本だけでなく、普通の絵本を読んであげたいと思ったのだそうです。

透明な塩化ビニール製のシートに文字を点訳して、文字の書かれている場所に貼り、読めるようにしました。点字が文字のところであれば点字のみでなく文字もある絵本になります。絵の形に合わせて同じようにシートを貼りました。作者、見える読者、見えない読者、みんなを意識して貼り方を考えます。見える人が楽しんでいる同じ絵本を見えない人も楽しむ

る、そんな本にしたいと岩田さんは考えました。

初めてできた絵本を見て、お子さんは「お母ちゃんの手ががついてる、読んで、読んで」と喜んで何回もせがんだのだそうです。母と一緒に時間を何回も楽しみました。子どもにはそれが一番大事です。

ボランティアの人たちをお願いして、てんやく絵本を作ってもらうようになりました。ご自身もともに製作することもあり、3年で絵本の数100冊を超え、読む絵本を選ぶことができるようになりました。今度は、自分たちと同じような親子にも、同じ喜びを味わってほしいと思い、貸し出すことを考えました。そして、「てんやく絵本ふれあい文庫」の前身である「点訳絵本の会岩田文庫」が生まれました。

目の見えない人は、借りに来ることも大変です。郵送を考えました。郵送料がかかりました。「市販の絵本」に点字がついているために点字用郵便と認めてもらえません。国に何度も掛け合いました。貸し出しの実績や、この問題を新聞社が取り上げてくれたりしてやっと認められたのは、3年後のことでした。やっと無料になりました。

〈こんなにも多くの困難があるとわかっていたらやらなかったかも知れません。多くの人たちの善意の中でここまでやってこられました。あまり深刻に考えません。なんとかなると続けてきました。〉

岩田さんは明るく笑って講演を終えました。

藤沢市の図書館にも点字付き絵本はあります。手に取って、是非見てください。

(甘粕 記)



講演会の様子



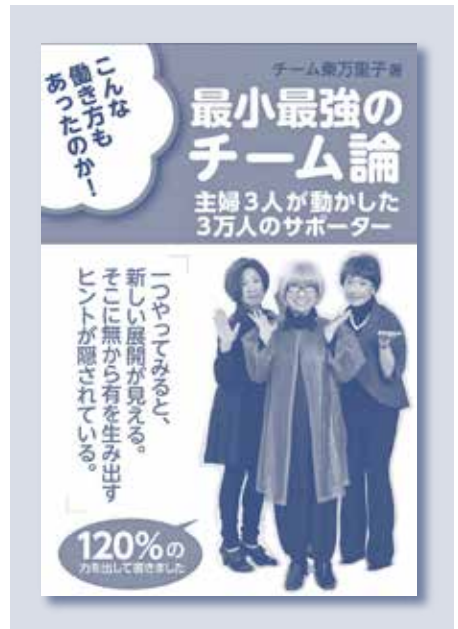
書籍紹介

チーム秦万里子 著

こんな働き方もあったのか！ 最小最強のチーム論

～主婦3人が動かした3万人のサポーター～

(生産性出版)



「半径5メートルの日常を歌う音楽家」秦万里子氏を53歳でメジャーデビューさせたチーム秦万里子によるビジネス奮闘記である。チーム秦万里子とは、秦自身と秦の楽曲を広めることを目的として、本書の著者秦万里子・中村裕子・中川ひろ子の3人が結成したもの。出会った当初はカルチャースクールの講師と会員、そしてホームコンサートの観客であったという3人。秦氏の音楽をたくさんの人に届けたいという思いから始まったチームはいかにして最小最強となったのかがそれぞれの切り口で語られる。

「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」がミリオンセラーとなり、一般にも広く知られるようになった経営学の巨人、P・Fドラッカーは企業の目的は利益の追求ではなく顧客の創造と言っている。企業で働く人は「自己実現」することで成果をあげ組織に対して貢献する。その「自己実現」は自分のためにするものではなく、顧客に向けて自分の力を活かすものである――。

企業活動と家事労働はよく似ていると言っては乱暴だろうか。というのも、チーム秦万里子のメンバーには企業勤めの経験がほとんどない。にもかかわらずドラッカーの提唱する企業の目的をとうに心得、実行してきているのだ。図らずもそうなのは、おそらく本人たちが述べている通り、長年主婦として家族や周囲の暮らしをよりよくするためのケアを続け、地域や社会と関わり合いを持っ

てきたから。つまりは家事労働という経験によるところが大きいのだろう。もちろん個人の才能やバイタリティ・キャラクターもおおいに発揮されているのだが、「こうされたらうれしい」を常に判断基準にするというチームの在り方の基となる気働きは、一朝一夕にはいかないものだ。

また、「私でないと言えない曲があるから」とは秦氏の言葉だが、チーム秦万里子からはこの「私でない」との意識が強く感じられる。チームにおいてプロデューサーの役割を担う中村氏・管理部門を担当する中川氏もそれぞれの特性・得手を駆使し、能動的に責任と誇りを持って仕事に取り組んでいる。控えめで抑えた印象の筆致とは裏腹に、3人の輝きはまぶしいほどだ。

「働く」とは何だろう。その理由や意味は、人によって時によって異なるものであるに違いない。しかし、いきいきとしたチーム秦万里子の軌跡をたどる本書には、もっと別の何かが示されているのかもしれない、と思った。

余談だが、秦氏がロサンゼルスオリンピック開会式のファンファーレに衝撃を受け、ジョン・ウィリアムスに弟子入りしたいと渡米し、彼の演奏会に通い詰めるうち意外な理由でその情熱がスッと冷めるくだりがおもしろい。自身のコンサートにおいてもテレビなどのメディア出演においても、そのおしゃべりもまた人気の秦氏らしいウイットに富んだエピソードの数々にもご注目。

(鈴木 記)

かがやく ひと

1998年、藤沢市市民活動推進連絡会を立ち上げ、2001年の藤沢市市民活動推進センター創設に参画し、センター長を辞した現在も協働コーディネーターとして市民活動を応援し続けている手塚さん。半生を地域活動とNPOの支援に注ぐ意義と熱い思いを伺った。



認定NPO法人
藤沢市市民活動推進連絡会
理事・事務局長
手塚 明美さん

自分らしく生きて欲しいと願って

今のポジションで重点を置かれていることは？

市民がいきいきと活動できる環境ができてきて、若い世代の方たちが興味を持ち始めてくださっている。その方々が輝けるように下準備と応援ができればいいかなあと。それが私の中で、一番大きな仕事だと思っています。

若い人たちが自分らしく生きること。難しいことですが、自分が何なのか自覚することで、自分らしく生きる選択ができます。お金さえあればといった高度成長期の後、サービスを選ぶ時代になりました。公共サービスも選ぶ時代です。同じようなサービスから、自分に合ったものを選ぶ。そのためには、自分は何?ということがわからないと決められない。自分らしく生きる能力をつけることは、生き方の価値判断がつくこと。自分の生き方を決める大きな柱がないと命を大切にす気持ちも生まれません。人それぞれが価値観の違いを認め合い、生き方を認め合うことができる社会に向かっていていると思います。

藤沢で市民活動を始められたキッカケは？

私は、群馬で生まれ、埼玉で育ちました。結婚して藤沢へ。居住地区の自治会や子ども会、PTAなどの活動をしている中で、子どもたちを取り囲む環境が学校だけではまかないきれいなことを実感しました。特に高校生など青少年に学校以外でどうサポートできるかを考えていました。市内各地区の子

ども会の連合組織である「藤沢市子ども会連絡協議会」から神奈川県と藤沢市の青少年協会の役員を受け、ますます意識が強くなっていきましたね。

時を同じくして、神奈川県で開催される国民体育大会にお越しになる各地の選手の皆様を藤沢市民がおもてなしするというので、1996年、組織が結成されました。ヨット競技のお手伝いでバナナをお渡しした選手から、競技終了後にお礼を言われたのです。その時、応援する喜びと感動を味わいました。国体が終わり、何かを応援したくて～。その前後にNPO法人の法律ができ、これで、心が一番揺れる時期の青少年たちの活動を責任ある立場で行えると思ったのです。と同時に、法人格を持つ小さな市民グループがたくさん誕生することも予測できました。そして、その組織には支援が必要ではないかとも思いました。まずはその法律と組織運営の勉強を始め、市民組織の支援の重要性もわかってきました。そこで、最初に取り組むべきは市民組織の支援だと判断し、NPO法人として「藤沢市市民活動推進連絡会」を立ち上げ、現在に至ります。

結局、未だ青少年の活動に直接踏み込めてはいないのです。それでも、青少年協会の役員当時高校生だった若者は、30歳代になって一緒に活動している。彼等が日々の生活の中で、さまざまな人と出会い、お金ではない解決力を身につけて羽ばたいているような気がしています。各所のNPOや市民活動団体のスタッフや支援者にその世代の若者が増えてきていますから。

多方面で活躍の手塚さんから見て藤沢市民は？

勉強会などで各地に伺わせていただいています。外から見ると、藤沢市はスマートで格好良く見えるらしい。市民は先進的で嬉しい。私もそう思います。個人的には特におばちゃん力は最強かな。それと市民の懐の深さ。私のような外様(よそも)が言いたいことが言える。聞いてくれる。藤沢の風土でしょうか。(聞きて 山口)



インフォメーション

ひとりで悩んでいませんか？
まわりに悩んでいる人はいませんか？

DV相談窓口のご案内

費用は無料、秘密は厳守します

これらはすべてDVです

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者やパートナーなどからの身体的・精神的・性的・経済的・社会的暴力などのことです

身体的暴力	殴る／蹴る／首を絞める／髪を持って引きずり回す／包丁で切りつける など
精神的暴力	暴言を吐く／脅かす／無視する／家から締め出す／子どもに危害を加えると脅す など
性的暴力	性行為を強要する／避妊に協力しない など
経済的暴力	生活費を渡さない／外で働くことを妨げる など
社会的暴力	外出や、親族・友人との付き合いを制限する／メールを見たり、電話をかけさせないなど交友関係を厳しく監視する など

藤沢市の相談窓口

※事件発生時は110番

相談機関	電話番号	相談時間(休・祝日、年末年始を除く)
福祉事務所(女性相談)	0466-25-1111(内線)3261	月～金 8:30～12:00/13:00～17:00
福祉保健総合相談室	0466-25-1111(内線)3250	月～金 8:30～17:00
人権相談(人権擁護委員)	0466-25-1111(内線)2132	金曜日 13:00～16:00

神奈川県相談窓口(配偶者暴力相談支援センター)

区分	相談時間・電話番号等
女性を対象とした相談	(1) 相談時間 ※休・祝日、年末年始を除く 月～金 9:00～21:00/土・日 9:00～17:00 (2) 電話番号 ① 0466-26-5550(9:00～21:00) ※土・日は17:00まで ② 0466-26-5551(9:00～21:00) ※土・日は17:00まで ③ 0466-27-9799(9:00～17:00)
女性への暴力相談 週末ホットライン	(1) 相談時間 ※年末年始を除く 土・日 17:00～21:00/休・祝日 9:00～21:00 (2) 電話番号 045-451-0740
多言語による相談	(1) 相談時間 ※年末年始を除く 月～土 10:00～17:00 (2) 電話番号 050-1501-2803 (3) 対応言語 英語、中国語、韓国語、朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語
男性を対象とした相談	(1) 相談時間 ※休・祝日、年末年始を除く 月～金 9:00～21:00 (2) 電話番号 0570-033-103
DVに悩む男性相談	(1) 相談時間 ※休・祝日、年末年始を除く 月、木 18:00～21:00 (2) 電話番号 0570-783-744

神奈川県人権センターの相談窓口

相談機関	電話番号	相談時間(年末年始を除く)
DVに悩む男性のための電話相談(被害者も、加害者も対象)	045-758-0918	月曜日 11:00～16:00

共に生きるフォーラムふじさわ2016 実行委員の募集

男女共同参画について認識を深めるイベントの企画・運営に参加しませんか。

- 対象** 実行委員会(平日に複数回開催予定)に出席できる方
- 実施日** 2016年11月の土曜日または日曜日(予定)
4月8日(金)までに、電話またはEメールに住所・氏名(フリガナ)・性別・年齢・連絡先を書いて人権男女共同参画課へ。
【電話】0466-50-3501
【Eメール】jinkendanjyo@city.fujisawa.kanagawa.jp
- 申込み**

キモチを伝えるデザインあります

チラシ・パンフレット・広報紙・HP・ショップカード・名刺・のぼり・クリアフォルダ・はっぴ・オリジナルグッズ・オリジナルキャラクターの制作、イベント企画など

株 湘南よみうり新聞社 ☎0466-50-5088
お気軽にお問合せください。info@shonan-yomiuri.co.jp

お見積
無 料

かがやけ地球は、市民の編集員さんの企画・運営によって、年4回発行しています。

編集スタッフ 甘粕 保子・有田 留美子
鈴木 悠子・山口 千鶴子

ご意見・ご感想・今後扱って欲しいテーマなどをお待ちしております!

FAX 0466-24-5928
E-mail jinkendanjyo@city.fujisawa.kanagawa.jp

古書・アウトレット本 買取と販売

買取 ご不要なもの、お売りください。※一部、買取れない品もあります。
(買取品目) 書籍・CD・DVD・ゲームソフトなど
お売りいただく際は身分証明書のご提示をお願いいたします。

お買得 稀少 アウトレット本と古書の販売 詳しくは下記ホームページで
発売後、読者の手に渡らず出版社に在庫されていた未読の本(アウトレット本)を旧定価の20～80%OFFで販売します。他に珍品や稀少本など古書も扱っています。

藤沢駅(南口)前・有隣堂藤沢店5階
リブックス藤沢店 ReBOOKS 有隣堂
☎0466-26-1411(有隣堂藤沢店代表番号) ●ホームページ http://www.yurindo.co.jp/

毎月1回 中庭ハセの木広場ステージにて 楽しいイベント開催中!

藤沢駅直結

フジサワ名店ビルでは、様々な貸ホール・ギャラリーを提供しております。教室の開催や展示会、講演などに、どうぞお気軽にご利用くださいませ。

空き状況は下記WEBサイトより確認いただけます。

地域密着 “元気” デパート
フジサワ名店ビル
☎0120-111-391 営業時間:10時～21時 〒251-0055 藤沢市南藤沢2番1-1号
☎0466-23-0111(内) www.fujisawa-meiten.com